

令和3年第1回北海道議会臨時会 開催状況

開催年月日 令和3年5月13日

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

担当部課 総合政策部政策局参事

質問要旨	答弁要旨
<p>一 感染状況と対策の評価と対応等について</p> <p>(一) 現下の感染状況と知事の責任について</p> <p>これまで知事は、感染拡大や病床ひっ迫の現状に対し、飲食店の営業時間短縮等を求める等の対策を行い、4月23日に、「札幌市内におけるGW特別対策」を発出しました。しかし、感染者は減少するどころか、急激な増加を続け、道内過去最多の新規感染者数を更新し続けています。</p> <p>政府分科会のメンバーからも「北海道は緊急事態宣言レベル」との声が連休前に既に上がっていました。知事は、この意見をどう受け止めていたのでしょうか。知事は何を根拠に札幌市内の特別対策にとどめたのでしょうか。その結果、感染抑止に効果を出せなかった知事自身の責任についてどう認識しているのか伺います。</p> <p>知事は、「これまで札幌市が感染の大部分」という認識を示し続け、道独自の対策を躊躇なく打つと豪語してきましたが、既に感染拡大が全道規模に広がっています。札幌市のみを対象としたことで感染拡大を食い止められなかったことは、変異株の特性や全道的な感染拡大の影響を踏まえなかった知事自身が判断を見誤ったからではありませんか。あわせてご自身の見解を伺います。</p> <p>【再質】</p> <p>知事は大変重く受け止めていると答えましたが、答弁から察するに、知事の見通しが甘かった上、ゴールデンウィーク特別対策にこだわって、五輪マラソンテスト大会ありき、新しい旅のスタイル延長ありきで、再検討もされなかったのではないかと考えます。その結果、昨日の陽性者は529人と過去最多となっておりますが、本日は712人。10万人あたりの感染者は札幌は110.3人、道内60.9人にまでのぼっております。さらに広い地域で急増していくことが考えられ、今後も感染抑止を見通せず、医療の逼迫度合いは限界を超え、通常医療にも影響が出てきております。命の危機と言わざるを得ません。ところが、今日の知事提案は従前の飲食店対策に留まっており、到底不十分です。これまで対策を是正する機会は何度もあったにも関わらず、それを怠ってきた知事の責任は重大です。知事の判断が遅れた上、感染抑止に有効でなかったことを率直に認め、反省しなければ、行政への信頼は崩れていってしまうのではないのでしょうか。</p> <p>爆発的感染状況となった本日、ただちに本部会議開催を決定し、全道規模で人流抑制の対策を強化すべきです。自粛に対してはしっかりと補償し、道民がこころよく協力できる対策に転換すべきと考えますが、見解を伺います。</p>	<p>【知事】</p> <p>現下の感染状況についてであります。道では、4月下旬の感染拡大を踏まえ、「まん延防止等重点措置」の要請に向けた検討を行うとともに、札幌市内における外出や往来の自粛に加え、市内全域の飲食店における営業時間の短縮といった独自の措置を実施してきたところでございます。</p> <p>これにより、市内の人流については、一定程度減少が見られましたが、ゴールデンウィーク中には、昨年の2倍程度の人出となり、感染しやすいとされる変異株の影響もあって、感染が全道域に急速に広がり、連日、過去最多の感染者数が続いていることは、大変重く受け止めております。</p> <p>特に、感染状況が札幌に次いで厳しく、かつ、札幌市との人の行き来が多い石狩管内と小樽市、同様に感染が広がっている中核市である旭川市について、札幌市に加えてまん延防止等重点措置の対象区域とする必要があると考えており、これらについて、市町村や有識者の皆様等のご意見を伺いながら、できる限り早期に対策本部において決定し、実行に移したいと考えております。</p> <p>【知事】</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応などについてであります。現在、札幌市以外の地域においても急速に感染が広がり、全道的にも医療は危機的な状況であり、私としては、このような状況に至ったことを大変重く受け止めております。</p> <p>このため、まん延防止等重点措置のもと、直面する感染拡大の抑止と医療提供体制の確保に向け、全力で取り組んでまいります。</p>